



TITLE:

## 社会研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

川村, 俊蔵; 河合, 雅雄; 東, 滋; 鈴木, 晃; 森, 梅代; 足沢, 貞成

---

CITATION:

川村, 俊蔵 ...[et al]. 社会研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1975, 5: 11-12

ISSUE DATE:

1975-12-27

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162665>

RIGHT:

matching to sample task.

Ibuka, N., K. Kubota, and E. Iwai.  
5th Cong. Int. Prim. Soc. (1974)

- 3) Go-signal なしの遅延反応の時の前頭葉ニューロン活動

小嶋祥三・久保田鏡

日本心理学会第38回大会 (1974)

- 4) 遅延反応の未完全学習時における前頭前野ニューロン活動について

久保田鏡・小嶋祥三

日本生理学会第51回大会 (1974)

## 社会研究部門

川村俊蔵・河合雅雄

東 滋・鈴木 晃

森 梅代・足沢貞成

## 研究概要

- 1) ニホンザルの社会生態学に関する研究

1. ニホンザルの分布とその変動に関する研究

東 滋・鈴木 晃・足沢貞成

昨年まで、川村らがおこなった京都、兵庫、滋賀、和歌山、三重、岐阜、宮崎のニホンザルの分布の現状について、一次資料の集積をおこなった。

岐阜、宮崎両県と東北地方の南部について、ニホンザルの分布像の形成過程—多くは地域個体群の衰退史である—をたどった。また、千葉徳爾共同研究員との協力のもとにそれに関与した狩猟活動、森林利用の形態など人為営力の加わり方を社会経済的・文化的背景との関連にも追究をすすめた。

2. ニホンザルの社会生態学—とくに自然群の環境利用とグルーピング・社会構造

東 滋・足沢貞成

ニホンザルの群れの連続した分布をゆるす環境で、遊動する群れがしめす生活と社会現象をとらえなおすために屋久島と下北半島西部の地域個体群について継続的な調査をおこなっている。

3. ニホンザルの個体群と生活の維持に対する森林施業その他の human impact の影響の生態学的研究

東 滋

ニホンザル個体群の地域構造や生活のたてかたに与える人為営力の作用を生態学の文脈においてとらえる。もっぱら“自然”の側の反応を異なる形式あるいは程度で人為の加わった地域間の比較と同一地域の時系列的变化の追跡により把握しようとする。下北半島の北西部・南西部の2つの地域個体群についての個体群変動の追跡と岐阜県下の天然林地域と“森林開発”のすすんだ地域の

予備的調査をおこなった。

また平行して、おなじ環境変化がニホンザル以外の森林哺乳動物に与える影響についても調査をすすめている。

4. 上信越山岳地帯のニホンザルの社会生態学的研究

鈴木 晃

- a. 積雪地帯への生態的適応の様式
- b. 個体群動態からみたニホンザルの群間関係
- c. 群間関係からみたオスの問題
- d. ニホンザルに於ける地域個体群とは何か

5. ニホンザルの地域個体群のあり方

鈴木 晃

上記上信越地方以外に房総丘陵及び箱根湯川原地方のニホンザルの地域個体群のあり方について、共同研究の対応者として共同研究をおこなった。

- 2) 海外調査に関するもの

1. ゲラダヒの社会・生態学的研究

河合雅雄・森 梅代

1973. 6—1974. 3 にエチオピアで行なったゲラダヒの生態学的・社会学的研究のまとめ。

2. メンタウエイ諸島における4種のサルの社会学的研究

川村俊蔵・渡辺邦夫<sup>1)</sup>

インドネシアのメンタウエイ諸島中のシブルット島において、インドネシア側研究者3名との共同研究としてシンパナザル、メンタウエイヤセザル、メンタウエイブタオザル、コピテナガザルの4種に関する比較社会学的研究を行ない、メンタウエイブタオザルを除いて、あとの3種はすべて家族的な小単位で生息し、生息地の大きさは10~15ヘクタールであることを知った。

3. 特別事業による海外調査とそのまとめ

鈴木 晃

- a. ウガンダに於ける各種霊長類の比較生態学的研究
- b. 森林地域にすむチンパンジーの社会学的研究
- c. ケニアに於ける各種霊長類の分布様式の調査と比較生態学的研究。特にタナ川に於けるタナリパー・レッドコロブス、タナリパー・マンガベイの子察調査

- d. マダガスカル島に於ける原猿類の予備調査

アフリカに於ける野外調査を1972年8月より続行し、本年度に入り上記の調査をおこなった後、1974年6月16日帰国。以後調査の整理とまとめをおこなっている。

- 3) 野生猿類の保護と農林業への被害防除の基礎的研究

- 1) 大学院学生

川村俊蔵・東滋・和泉剛<sup>2)</sup>・伊藤美恵子<sup>2)</sup>

中村克哉を代表とする上記研究において、ニホンザル・タヌキ・キツネの研究を行ない、農林業との関係および生態学的管理方法の研究を行なった。またアカネズミ・ヒメネズミについて同様な研究を行なった。

## 総 説

- 1) 河合雅雄 (1974): 動物 社会における性の役割。言語 3, (12).
- 2) Kawai, M. (1975): Precultural Behavior of the Japanese Monkey: Hominization und Verhalten, sond. aus Kurth und Eibl-Eibesfeld, Gustav Fischer, Stuttgart.
- 3) 鈴木 晃 (1974): にんげんとは何か。にんげん 百科, 5 (12): 1516—1520.
- 4) 東 滋 (1974): 生態・自然保護。霊長類シリーズ。臨床科学。
- 5) 東 滋 (1974): けものからみた森。林研。
- 6) 東 滋 (1975): 下北半島のニホンザル—その生活季節。四手井網英編 もりのけもの (印刷中)。

## 論 文

- 1) 川村俊蔵・村松正敏・福田史夫 (1974): 1973 年秋における小豆島のニホンザルの現状と問題点。哺乳類科学 28, 29: 125—139.
- 2) Kawamura, S. (1975): Chap. 3, Present Status of the Fauna and Its Conservation. 3-1, Mammals. JIBP Synthesis, 9: 57—61.
- 3) 鈴木 晃 (1972): 房総丘陵のニホンザル。自然 27 (10): 96—101.
- 4) Suzuki, A. (1972): On the problems of the conservation of the Japanese monkey on the Boso peninsula, Japan. *Primates* 13(3): 333—336.
- 5) 森 梅代 (1974): 幸島に生息するニホンザル自然群におけるコドモの遊びの仲間関係。人類学雑誌, 82巻4号。

## 報 告 そ の 他

- 1) 川村俊蔵 (1974): 獣類からみた大峯山脈。吉野熊野国立公園・大峯地区学術調査報告書, pp. 29—44. 奈良県。
- 2) 山村俊蔵 (1974): 吉野熊野国立公園地域の哺乳類について。吉野熊野国立公園学術調査報告。pp. 49—56. 日本自然保護協会・関西支部・資料 No. 5。
- 3) 川村俊蔵・和泉剛・雪石邦義 (1974): 東中国山地の哺乳類に関する調査報告。東中国山地自然環境調

査報告 pp. 67—80. 兵庫県・岡山県・鳥取県。

- 4) 川村俊蔵・和泉剛 (1974): 愛知県下の哺乳類の分布に関する予察調査。尾張パークウェイ建設予定地域の自然環境調査報告書。愛知県道路公社。p. 117 + 地図17葉。
- 5) 東滋・伊藤徹魯 (1975): 神崎川流域の哺乳動物。岐阜県環境局。
- 6) 東滋・伊藤徹魯 (1975): 根屋谷の哺乳動物。岐阜県環境局。
- 7) 東滋・林勝治 (1975): 和良川流域の哺乳動物。岐阜県環境局。
- 8) 東滋ほか (1975): ツキノワグマ 調査報告 (1974年度) 手稿。岐阜県企画部。

## 学 会 発 表

- 1) ゲラダヒヒの音声伝達と社会関係

河 合 雅 雄

第28回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1974)

- 2) アフリカの熱帯林に於ける各種霊長類の行動域について

鈴 木 晃

第19回プリマテス研究会 (1975)

- 3) Social relations and behavior of gelada baboons—Studies of gelada society.

Mori, U., & M. Kawai

5th Cong. Int. Prim. Soc. (1974)

- 4) ゲラダヒヒの One-male unit の社会構造

森 梅 代

第28回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1974)

- 5) The Present Situation of Japanese Monkeys and Consideration of Their Conservation.

S. Kawamura

5th Cong. Int. Prim. Soc. (1974)

- 6) 下北半島におけるカモシカの生息頻度の変動 I, 下北半島西南部の場合

東・足沢・大竹・菅木・森・和田

日本哺乳動物学会 (1975)

## 変異研究部門

野沢 謙・江原昭善・和田一雄

西邨顕達・庄武孝義

## 研 究 概 要

- 1) ニホンザルの集団遺伝学的研究

野沢 謙・庄武孝義

## 2) 研修員